

狂言学習（立ち稽古）《6年生》

11月7日（月）は、6年生が、山口耕道先生に狂言を教えていただく2回目の稽古でした。前は、セリフのみの練習でしたが、この度からは、動きが入ってきます。子どもたちは、セリフを言いながらその役になりきって演じていきます。ただセリフや動きをするのではなく、その登場人物がどういった人物なのかを理解して、その登場人物らしさを演じていきます。



狂言の稽古では、山口先生にご指導いただいてから少し時間を置き、その間に、子どもたちが自分の課題を克服できるように努力していきます。

次回（第3回目の山口先生のご指導）は、11月21日（月）です。



最初に、『猿唄』の稽古をしました。

声を聞くだけで、「〇〇さんの声だ」と分かりますね。声の違いは骨格の違いでもあります。よく「お父さんの声に似ていますね」とか「お母さんの声に似ていますね」と言われることがあります。親子で声質まで似てくるんですね。

声の違いも個性として大事にしてほしいです。

謡で、一番大事なことは、姿勢をよくすることです。

「空気伝導」「骨伝導」という言葉を聞いたことがありますか。声は、体から音が出ています。体全体を使って効率的にしようと思うと、姿勢をよくすることです。

骨は成長していますが、女性は18歳、男性は23～24歳頃に骨の成長が止まります。十代は、ものすごく大事ですね。いい姿勢をとる方法を覚えましょう。

『附子』の稽古をしました



主人は、扇を必ず右手に持ちます。親指は内側に折りこんで、腰に手を当てます。ひざ関節を緩め、足の裏で支えて立ちます。

太郎冠者と次郎冠者は、扇を腰にさします。親指は内側に折りこんで両手を腰に当てます。舞台への登場は、主人、太郎冠者、次郎冠者の順です。



座る時も、背筋をしっかり伸ばします。



セリフをいうコツは、「すごく遠くに言葉を届かすこと」と「語尾をあげること」です。



向きを変える時は、内側の足を基準にして向きを変えます。観ている人（観客）に背中を見せないようにします。但し、姿を隠す時は背中を見せます。



お辞儀のしかたを教えてくださいました。



目線と手の先（指先）をそろえましょう。指す時は、しっかりそれを見て指しましょう。（観客もそれを一緒に観ています）



くつろいでいる場面であっても、きちんと演技をします。手（指）を置く位置に注意をします。よい姿勢を常に意識しましょう。考える時は、目線は下、首を横に傾けます。

立ち稽古初日、子どもたちは、山口先生に教えていただいたことを次回の稽古に生かすために、友だちに頼んで、教えていただいている様子をそれぞれがchromebookで記録（動画）しています。子どもたちのやる気がどんどん伝わってきます。頑張っています。